

## 令和5年度三重短期大学外部評価委員会 報告書

1. 日 時 令和5年7月28日(金) 17時00分～19時00分

2 場 所 三重短期大学管理棟2階 演習室1

### 3 出席者

(1) 外部評価委員 出席5名

栗原委員長、伊藤委員、上田委員、仲委員、土方委員

(2) 事務局 出席8名

村井学長、前田事務局長、川邊事務局次長兼総務課長、南学生部長、  
石原図書館長兼地域連携センター長、田中法経科長、阿部食物栄養学科長、  
小野寺生活科学科長

### 4 委員のご意見

- ・10月実施の1年生の進路状況把握のための全員面接は誰が行っているのか。面接実施担当者が教員ではない場合、教員との情報共有をどのように行っているのか。
- ・「進路決定状況」の「その他・既就・不詳」欄が全体の20%を占めている。一括りにするには数字が大きいため、「既職」、「不詳」と分けるべきではないか。また、この数字を減らしていくことが大切ではないか。
- ・編入学希望者数と実際の編入学者数との差が大きい。入学時は一定数の希望者がいるようだが、数値目標を立てる、指定校を増やすなどの対応が必要ではないのか。
- ・県外からの学生の確保を考えた場合、特に国公立大学へ編入できることは、とても大切なことではないか。
- ・地域に有益な人材を輩出するという短期大学の目的からすると、編入学を大きくPRすることについて疑問がないわけではない。この点も今後考えてもらえれば。
- ・入試科目や入試問題の難易度などについてアンケートを実施しているが、回答結果をどのように活用しているのか。
- ・高校で学んだ内容をさらに大学で深めるという点で、関連分野特別選抜は大切だと思う。高校側にしっかり説明して、定員の一定数を確保すべきではないか。
- ・リタイアした人か現役の会社員か、社会人特別選抜のターゲットを明確にすべきではないか。
- ・学校推薦型選抜で指定校推薦制を実施しているのか。また、普通科の生徒を対象とするAO入試の採用は考えていないのか。
- ・急速に少子化が進む中で、三重短期大学でなければならないものは何か、10年先をどのようにやっていくのか、真剣に議論することが必要ではないか。

- ・教室の机と椅子が学生には小さいのではないか。またアンケートでは、学食に電子レンジがない、オープン時間が短い等の声がある。検討が必要ではないか。
- ・外部からの訪問者が使用する可能性の高い管理棟の男子女子トイレの洋式化が必要ではないか。

## 5 提言

- ・津市、中勢、南勢、伊賀・東紀州など受験生の出身地によってプロモーションの仕方は違う。特に津市以南の地域の学生確保は大切であり検討が必要ではないか。
- ・教員と学生との間の SNS を利用したやりとりは、注意が必要だ。リスク管理の観点からも、教員および事務職員に対して対策を徹底するよう注意喚起が必要ではないか。
- ・一定数の退学者がいるが、事情を把握し、経済的な理由であれば利用可能な制度を紹介するなど、できる限りフォローして卒業につなげるべきではないか。
- ・大学での学びと地域での直接体験の往復は学生の成長にとって重要だ。津市立ならではの学生の地域連携活動を今後も大切に続けていくべきではないか。
- ・前年度より学生相談室の利用者数が減少している。原因を分析し、相談時間を工夫するなど、相談者の利用しやすさを検討すべきではないか。
- ・卒業生アンケートや授業評価アンケートには、職員の対応や教員の評価について厳しい意見もある。結果を踏まえ、改善策の検討が必要ではないか。
- ・ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係性の考慮は重要だ。シラバスに各科目の到達目標・学修成果とディプロマ・ポリシーとの関係性を明示した上で、それぞれの到達目標・学習成果ごとに達成度の評価を行うべきではないか。
- ・アセスメントテストを通じた学修成果の客観的な評価と、学生が自らの学修成果をどう捉えているのか、両者のずれが見られる可能性もあることから、客観的評価と学生の自己評価を突き合わせ、今後の効果的な指導に活かしていくべきではないか。
- ・ChatGPT 等の生成系 AI を学生が利用するにあたって、大学として対応が必要ではないか。